

3. 大脳皮質基底核変性症を有する患者に行った歯科治療の1例

A case of dental treatment for a patient with corticobasal degeneration

○小瀬川 遼, 菊池 和子, 磯部 可奈子,
熊谷 美保, 久慈 昭慶, 森川 和政

岩手医科大学歯学部口腔保健育成学講座
小児歯科学・障害者歯科学分野

【目的】大脳皮質基底核変性症 (Corticobasal degeneration: CBD) は筋固縮などの錐体外路徴候, 失行や認知機能障害などの大脳皮質徴候が出現する難病である。本症例患者は CBD や加齢の影響により円背やジストニア, 四肢の拘縮などが生じており通常の歯科治療を行うことが困難である。そのような患者に対して個人に合わせた体位を作り, 安全な歯科治療を行うことを目的とした。

【方法】円背や四肢の拘縮に合わせた体位とするため, ユニットに傾斜をつけ除圧マットやクッションの配置を行った。また不随意的な食いしばりもみられるため, 開口器を使用しながら歯科治療を行った。

【結果】バイタルサインの悪化など特に問題はみられず, 合計 11 回の歯科治療を行うことができた。

【考察】本症例は CBD 発症後の症状である「無動」による自力歩行不可および筋力低下に伴う円背, 「ジストニア」に起因する四肢の拘縮の所見を認めた。

そのような患者を仰臥位にすると, 身体の各部位に痛みが生じる可能性がある。さらに仰臥位にしたことにより舌根が落ち込み, 気道を閉塞し呼吸状態が悪化するおそれがある。高さ調整を行い, 患者個人に合わせた体位としたことで問題なく治療することができたと考えられた。

また, 患者は不随意的な食いしばりが強い状態であるため, 開口器を口腔内へ入れることが困難である。そのため, 下顎両側の口腔前庭に指を入れ, そのまま下の方向に力を入れて開口を促す「下顎押し下げ法」, 臼歯部へのブラッシングによる刺激を併用し, 開口量が得られたときに開口器を挿入することで安全に器具を装

着することができたと考えられた。

【結論】本症例の CBD は国内において人口 10 万人あたり 2 名程度の稀な疾患であるが, 今回のような対応は増加しつつある高齢患者や高次脳機能障害を有する患者への歯科治療にも応用できると考える。

安全な歯科治療を行うために患者の状態を把握し, 個人に合わせた対応が求められる

4. 顎関節人工関節全置換術を施行した進行性下顎頭吸収の1例

A case of progressive condylar resorption treated with a total temporomandibular joint replacement system

○川又 慎介, 川井 忠, 小野寺 慧,
角田 直子, 齋藤 勇起, 笹村 祐杜,
豊原 梨花, 池田 裕之介, 古城 慎太郎,
山田 浩之

岩手医科大学歯学部口腔顎顔面再建学講座
口腔外科学分野

目的: 進行性下顎頭吸収は, 下顎頭が部分的あるいは全体的に吸収され, 下顎高径の短縮による開咬や, 下顎後退による顎顔面形態の変形をきたす疾患とされる。重篤な症例では顎関節人工関節全置換術の適応となり, 本邦では 2020 年 4 月に保険収載された。今回, 進行性下顎頭吸収を呈し, 顎関節人工関節全置換術を施行した 1 例を経験したので報告し, 顎関節人工関節全置換術の有効性について考える。

症例と経過: 患者は 35 歳女性。開口障害を主訴に 2017 年 9 月当科受診となった。顎関節症の診断により, 治療を行っていたが, 再度精査を行ったところ, 進行性下顎頭吸収を認め, 2021 年 11 月全身麻酔下に両側顎関節人工関節全置換術を施行した。術後 2 か月経過するが, 感染所見なく経過良好であり, 定期的に経過観察を行っている。

考察: 従来, 治療困難であった重篤な顎関節症疾患での大幅な顎機能の回復と顎顔面の容貌の改善に対して, 人工関節置換術が選択肢として加わった意義は大きい。だが, 海外での術後感染や人工関節の破断などの合併症の報告もある